

横浜西区郷土史研究会報 第六二号

掃部山公園の歴史的考察

田村 泰治

一、公園の成立

1914(大正3)年、この土地を所有していた旧彦根藩主井伊家から大老井伊直弼銅像の管理維持を条件に横浜市に寄付され、横浜市は公園としての植樹・施設を整えて「掃部山公園」と名付けて公園として公開した。敷地6291坪、八重桜の名所として市民に喜ばれた。しかし、1923(大正12)年9月1日の関東大震災で市街地が壊滅すると、公園は多数の避難民を収容して公園としての業務を中断していた。復興が始まり、収容所が撤去され園内の整理修造、銅像補修、枯損木、増殖を行うとともに隣接民有地2012坪を買収して拡張。公園の目的を休養・散策・展望に絞り1926(大正15)年2月8日起工し、1927(昭和2)年10月31日竣工。11月5日に開園式を挙げて公開を始めた。2014年に

は開園百周年を迎え、現在は百周年になる。

二、掃部山のいわれ

この公園一帯の山地名は明確になっていないが、横浜市史稿、地理編と風俗編では多少意見が異なっている。古くは不明であるが江戸時代は「不動山」「鉄道山」と呼ばれていた。特に「鉄道山」は明治時代の横浜新橋間の鉄道敷設の際、1870(明治3)年3月25日に工事が着工され、その工事関係者の官舎がここに建てられたのでその名称が一般的に用いられたようである。さらに鉄道開通後も湧き水を鉄道用水として利用されていたため鉄道路の所有地であった。

野毛山として総称されていた丘陵は横浜道建設で、「野毛切通し」で二分され、さらに鉄道敷設用地の埋立造成のために掃部山公園地に隣接していた「鷹ノ巣山」(旧伊勢山)を切り崩し、海岸寄りの崖を削ったため原型を留めていない。「鷹ノ巣山」の山頂付近に祀られ

ていた「大神宮」を1870(明治3)年に神奈川県知事、井関盛良(もりとめ)の告諭により現在地に移した。この社を「伊勢山皇大神宮」と唱え、横浜の総鎮守と定めた。そのため「伊勢山」となり、野毛山から分離されるようになった。「鉄道山」は1884(明治17)年、鉄道省の払い下げの際、彦根藩の藩士等が大老井伊直弼の顕彰碑を建てる計画で購入した。当初は東京の地を探していたが政府が反対して25年近く建設ができなかった。途中で碑から流行の銅像に変わったが安政の大獄等の強圧施策に反感を持つ討幕派で構成されている藩閥政府要人の妨害で遅れた。「大老」をとるか、「開港の恩人」をとるかで彦根でも議論が分かれてしまった。

横浜市が1909(明治42)年、開港50周年祭を挙げる計画を知り、銅像をこの機会に購入した鉄道山に建てることにし、式のなかに銅像の除幕式を加えることになり、急遽銅像建設が行われるとともに造園・植樹が始められた。井伊直弼にちなんで「掃部山」と称した。しかし、「横浜市史稿 風俗編」では「もとより掃部山と称

した丘であることをさらに井伊家が選んで購入したともいう」説を紹介している。だが、藩士達が購入し、これを井伊家に寄付付していることから考えると、この説は取り上げられない。

銅像が完成した直後、再び開港記念祭に除幕式を加えることに政府からクレームがつき、一時は記念式典までが開催できない状態に至り、彦根藩士達が除幕式を10日間延期することで決着をつけた。この銅像はその後災難を受けることになった。完成後、井伊家から石の水飲み施設が寄贈され、現在も存在している。

三、現在の掃部山公園内の史跡

- ① 「横浜能楽堂」
- ② 「井伊直弼銅像」

初代の銅像は1943(昭和18)年の金属回収例によつて没収され、戦争継続のための武器等にされた。

- ③ 「石製水飲み場施設」

- ④ 飯岡幸吉歌碑

西区花咲町に生まれ育った飯岡幸吉(1898-1973)は「アララギ」の同人。

まちなかに緑をたもつ掃部山
ましてや虫を聴く夜の楽しき 幸吉

令和六年度 前期 事業計画

令和六年四月～六年九月

歴史散歩 (前期二回 第一土曜日)

・五月四日(土) 根岸界隈から堀割川を歩く
集合…JR根岸駅改札口 10時

講師 麻生 民次

・七月六日(土) 深川芭蕉庵(午前)から関口芭蕉庵(午後)へ
昼食は深川で「深川めし」の予定
集合…横浜駅中央通路 赤い靴女子像前 9時

講師 関根 啓二

定例講座 (戸部コミュニティハウス 十四時)

・四月二十七日(土) 世界を席巻した麻真田工業と横浜

講師 田村 泰治

・五月二十五日(土) 山本周五郎と妻

講師 鶴沢 秀男

・六月二十二日(土) 後北条と呼ばれる一族

講師 麻生 民次

・七月二十七日(土) 「北条幻庵覚書」を読む

講師 吉田 欣司

・八月

休講

・九月二十八日(土)

大仏次郎と横浜

講師 関根 啓二

お知らせ

▼感染症の拡大状況等によつては後期予定を変更することもあります

横浜西区郷土史研究会 会報 第六十二号

発行日 令和六年四月一日

発行者 横浜西区郷土史研究会 会長 鶴沢秀男

編集者 鶴沢秀男 田村泰治 山口精一

麻生民次 関根啓二

会報年二回発行 四月一日・十月一日